

2019年8月 日

町田市長  
石坂 丈一 様

町田市環境マネジメントシステム  
外部評価委員会委員長 松波 淳也

## 2019年度町田市環境マネジメントシステム外部評価報告書（案）

### 1. はじめに

町田市では2012年度から町田市独自の環境マネジメントシステムを運用し、市内の環境配慮活動と市域全体に対しての環境施策を推進している。

この環境マネジメントシステムの運用に関し、その評価を適正かつ公正に実施することを目的として、市民・事業者・学識経験者で構成した「町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会」を設置している。

外部評価委員会では、この環境マネジメントシステムの運用とこれに基づく活動に対して、客観性を担保し、透明性を高めるため、第三者の立場からの評価を実施した。

### 2. 外部評価の方法等

#### （1）外部評価委員会の構成

- ・ 市民4名、事業者3名、学識経験者3名の計10名の委員で構成
- ・ 委員の任期は2年、現委員の任期は2018年6月から2019年9月

#### （2）評価対象

##### ① 組織

全庁全課（市立の小中学校を含む）

##### ② 活動

「町田市第4次環境配慮行動計画」に基づくエコオフィス活動

#### （3）評価内容

##### ① 環境パフォーマンス

温室効果ガス排出量、エネルギー使用量、廃棄物排出量、紙資源使用量、グリーン購入の実施状況

##### ② 環境活動の状況

エコオフィス活動（共通の取り組み）、エコオフィス活動（施設を管理する部署の取り組み）  
内部環境監査結果および是正状況

#### (4) 実施方法

- ① 基礎情報の提示と説明（第1回外部評価委員会）  
事務局が、環境マネジメントシステムの運用状況及び成果を示す(5)の文書および資料を第1回外部評価委員会にて外部評価委員に提示し、内容を説明する。
- ② 1次評価の実施  
外部評価委員は、事務局より提示された文書および資料を基に評価項目<sup>\*1</sup>ごとに評価基準<sup>\*2</sup>にしたがって評価点と評価意見を付し、事務局に提出する。
- ③ 現地確認の実施  
外部評価委員は、実地による確認が必要であると判断した部署および施設を訪問し、取組み状況等を確認する。
- ④ 評価結果の審議（第2回外部評価委員会）  
事務局は、1次評価結果および現地確認による評価結果をとりまとめ、第2回外部評価委員会に提出する。  
外部評価委員は、評価結果を審議する。
- ⑤ 2次評価の実施  
外部評価委員は、審議の結果を踏まえて、あらためて評価項目ごとに評価点と評価意見を付した2次評価を実施し、事務局に提出する。
- ⑥ 外部評価報告書のとりまとめ（第3回外部評価委員会）  
事務局は、2次評価結果をとりまとめ、第3回外部評価委員会に提出する。  
外部評価委員会は、すべての評価結果を精査し、外部評価報告書としてとりまとめる。

#### ※1：評価項目

運用状況に対する評価	
評価項目	評価内容(例)
温室効果ガス エネルギー	・目標達成状況に対する評価 ・経年変化に対する評価
廃棄物 紙資源 グリーン購入	・目標達成状況に対する評価 ・経年変化に対する評価
エコオフィス活動 (共通の取り組み)	・各職場の活動状況に対する評価
エコオフィス活動 (施設を管理する部署の取り組み)	
内部環境監査	・監査結果に対する評価 ・是正対応状況の評価

#### ※2：評価基準

評価点	5	4	3	2	1
評価内容	評価できる	概ね 評価できる	普通	あまり 評価できない	評価できない

(5) 外部評価委員会に提示された文書および資料等

- a. 2018年度町田市環境マネジメントシステム実績報告書
- b. 2018年度内部環境監査結果報告書
- c. 2018年度町田市環境マネジメントシステム外部評価報告書
- d. 2018年度町田市環境マネジメントシステム市長総括記録
- e. 上記文書および資料に関連するデータ等

3. 外部評価委員会の実施日時および実施内容

区分	日時	内容
第1回 委員会	6月27日 18時30分 ～20時30分	(1) 外部評価の内容及びスケジュールの確認 (2) 環境マネジメントシステムの実績報告
1次 評価	6月28日 ～7月5日	各委員による1次評価の実施
現地 確認	7月9日、 7月12日	・7月9日 13時30分～15時10分 観光まちづくり課（町田市庁舎）、鶴川中学校 ・7月12日 13時30分～15時30分 総務課（町田市庁舎）、南第一小学校
第2回 委員会	7月25日 18時30分 ～20時30分	(1) 現地確認結果の報告 (2) 事務局ヒアリング（各委員からの質疑応答） (3) 1次評価結果について審議
2次 評価	7月26日 ～7月30日	各委員による2次評価の実施
第3回 委員会	8月8日 18時30分 ～20時30分	(1) 2次評価結果について審議 (2) 最終評価結果のまとめと市への提言

#### 4. 外部評価結果

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
温室効果ガス排出量・エネルギー使用量	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 電気使用量、都市ガス等使用量、灯油等使用量は減少しているが、温室効果ガス総排出量は前年より増えており、基準年と比較しても微減でしかない。もう少し取り組みを進めていく必要があるように感じる。</li> <li>◆ 2021年度の目標数値とはまだ乖離があるが、電気やガス等のエネルギー使用量の削減を精力的に進めており、またCO2排出係数の低い電力会社と契約するなど、高い「温室効果ガス排出量の削減意識」を持ちながら進めている。</li> <li>◆ 昨年度から、電力調達において競争入札を導入している施設では、環境省が示す排出係数の代替値未満の事業者であることを入札参加条件としたことは、電力使用にともなうCO2排出量の削減を図るうえでこれまでからのさらなる前進として評価できる。しかしながら、契約時では落札事業者の排出係数が代替値未満であったとしても、後に落札事業者の当該年度の排出係数最新値が代替値を上回ってしまう結果となっているケースがみられ、結果的に当初の期待どおりにはCO2排出削減につながっていない状況があるため、契約時点での排出係数に加えて、未利用エネルギーの利用状況、再エネ導入状況等の要素の評価点と価格点とを総合評価するような仕組みを検討する余地がある。</li> </ul>
廃棄物・紙資源・グリーン購入	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 紙資源、グリーン購入については、2018年から集計方法が変わったということで、評価対象である「経年変化状況」は評価不能である。</li> <li>◆ 集計システム変更のため、経年比較はできないが、実地調査での情報も含めた総合的判断から、昨年と同等レベルとの判断での評価をした。</li> <li>◆ 新たな財務会計システムの導入により、基礎となるデータの集計方法が従来から変更になっている部分があるが、そうすると経年変化の把握や国・他自治体との比較が出来なくなるといった重大な問題が生じてしまう。財務会計システム構築の際にこうした支障が生じないように配慮すべきであった。</li> <li>◆ 紙資源については、冊子の印刷数縮減やタブレットを使用した電子会議の普及などにより大きく削減されていることを評価したい。なおグリーン購入については、集計単位が変更になった(数量から件数)ため、定量的な評価は難しいが、新システム導入により事務労力が軽減されるのであれば、持続的に環境マネジメントシステムを継続していくには、望ましいと考える。</li> <li>◆ 昨年に比べ評価を厳正化した。内的活動が不備ということではなく、マイクロプラスチックの海洋汚染や紙資源不足など環境問題の顕在化により外的環境が相対的に一層厳しくなっているため。</li> <li>◆ 廃棄物排出量は施設の建て替え設備の入れ替え等で変化することは致し方ないので、再利用の方法をわずかでも考慮・改善するよう取り組みを期待します。</li> </ul>

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
エコオフィス活動(共通の取り組み)	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 現地確認結果も含めた総合的判断から、概ねよくできていると評価できる。</li> <li>◆ 細部に計画、工夫が見られ、各員が真剣に取り組んで効果をあげている。</li> <li>◆ 取り組みについては、継続し、工夫を重ねていることを評価したいと思う。</li> <li>◆ 評価はできるので、今後は習慣づけて継続できるかだと思います。</li> <li>◆ 概ね良好な取組がされている。地道な活動と同時にペーパーレス化など大枠での検討も進めてほしい。</li> <li>◆ チェックシート上の「低評価の要因・取組みの課題」の記載において、要因が十分に説明されていない部分がある。今後は、要因分析を含めて、さらなる改善につながるような記載がなされるように、各職場に共通認識をもってもらふ必要がある。</li> </ul>
エコオフィス活動(施設を管理する部署の取り組み)	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 現地確認結果も含めた総合的判断から、概ねよくできていると評価できる。</li> <li>◆ 一部未実施があるものの、概ね「エコオフィス」を意識し、施設を管理しているものと考えられる。</li> <li>◆ 概ねよくできていると思う。継続的な改善という点で言えば、各部署の取り組みについて、○から×になったところ、あるいは×から○になったところ、などどのような変化があったのかが分かると良い。</li> <li>◆ 施設の個々の状況の違いがある中で、それぞれができることを見つけて取り組んでいると思う。ただ、外から見て足りない点を提案していくことは必要と思われる。</li> <li>◆ 「昼休み時の照明消灯の実施、採光を利用した消灯の実施」は公共施設や教育施設において実施率が低い傾向がみられる。こうした施設においては徹底を図ろうとすること自体、困難もしくは不適切なのではないか。</li> </ul>
内部環境監査	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 不適合があること自体、問題ではあるが、内部環境監査が適切に機能していることの証左でもある。是正対応も迅速になされていることは評価できる。</li> <li>◆ 不適合の事例について、全庁的な確認を促す取り組みがおこなわれており、また厳しい内部監査を実施している点は評価できる。</li> <li>◆ 身内に対しての監査にもかかわらず厳格に審査しており、システムとして適正に機能している点を大いに評価したい。</li> <li>◆ 是正が必要な施設が多かったことには正直驚いたが、改善されていることには評価したい。</li> <li>◆ 良好な取り組みがされていると感じられるが、法令順守の問題など一部に課題があり、早急に改善する仕組みがほしい。</li> <li>◆ 市として全部署共通の「環境法令遵守チェックシート」を作成して、各部署で遵守状況の確認をするようにしたことは、昨年度からの前進である。</li> <li>◆ 不適合となった3件のうち2件は、廃掃法で義務づけられているマニフェスト交付状況報告を怠っていたという法令違反の事案であり、担当者の認識不足では本来済まされない問題である。これら事案は氷山の一角であるかもしれないが、他にも同様の違反が放置されていないか、改めて全庁的に確認すべきだと思われる。</li> </ul>

## 5. おわりに（まとめ）

町田市環境マネジメントシステムは、市の全施設・全職員を対象範囲とし、環境配慮行動計画に基づく市の温室効果ガス排出量削減目標達成のための全職員の環境活動を進行管理する仕組みであり「職員による内部環境監査」「市民等の第三者による外部評価」「取組実績、内部監査結果、外部評価結果の開示」等の透明性の高い評価プロセスを取り入れている先進的なシステムであるといえる。

本外部評価においては、数値データや点検結果をとりまとめた実績報告書及び内部環境監査結果報告書を精査し、また、複数の施設を訪問し、環境活動の取組み状況を实地に確認した。その結果、職員の日常的なエコオフィス活動や各施設における環境配慮を意図した設備の適正管理等の取組みは徹底されている様子が見て取れた。実際に、組織全体としてのエネルギー使用量も減少していることは評価できる。しかしながら「取組みの徹底や成果」は評価できるものの、それらをマネジメントする「仕組み」には改善の余地がある。

例えば、市は2018年度より新たに、電力調達における競争入札において、コスト面だけでなく温室効果ガスの排出係数も併せて評価する方式に変更していることは大いに評価できる。しかし、契約時の係数と後に公表される係数が異なるため、期待どおりの削減にはつながっていない。

また、紙資源・グリーン購入については、更改した新財務会計システムにて実績を集計することとなったため、集計範囲や把握単位が変わり、過去実績と経年比較ができないこととなった。

こうした状況は、せつかくの職員の努力が成果に表れない結果となり、環境マネジメントの適切な推進を阻害しかねない。“行政システム自体の課題”という難しいテーマではあるが、関係部署を巻き込んだ検討を進めていただきたい。

また、内部環境監査においては、前年度に引き続き、廃棄物処理手続きに係る対応不備が指摘されている。2019年度より開始した「環境法令遵守チェックシート」の効果を見つつ、全庁的な水平展開を徹底することが必要である。なお、自組織に対して厳しい指摘を行う内部監査の客観性、有効性は全評価委員が高く評価をしていることを申し添える。

### 【参考：前回の外部評価報告書のコメント】

町田市環境マネジメントシステムは、市の全施設・全職員を対象範囲とし、環境配慮行動計画に基づく市の温室効果ガス排出量削減目標達成のための全職員の環境活動を進行管理する仕組みであり「職員による内部環境監査」「市民等の第三者による外部評価」「取組実績、内部監査結果、外部評価結果の開示」等の透明性の高い評価プロセスを取り入れている先進的なシステムであるといえる。

職員に対しては、集合型の職員研修に加え、e-ラーニング研修、周知文書や掲示等で環境意識の向上に努めている。今回、実施した現地確認においても、日常的なエコオフィス活動は徹底されている様子が見て取れた。実際に、組織全体としてのエネルギー使用量も減少していることは評価できる。

しかし、新しい「町田市第4次環境配慮行動計画」に掲げる目標を達成するためには、さらなる成果が求められる。行動計画に明示している全庁共通的な取組みだけでなく、「施設・職場特性および業務特性を考慮した独自の取り組み」「行政事務自体の効率化」「施設の更新・再編時の環境配慮視点の組み込み」を促し、マネジメントしていくことが必要だと思われる。

また、今回、内部環境監査において、廃棄物処理手続きに係る対応不備や担当者の理解不足といった法令遵守が危ぶまれる状況が複数件指摘されていた。法令管理のプロセス（適用法令の把握、遵守状況の定期的確認、担当職員への教育等）は強化するべきである。

最後に、活動実績や監査結果等は詳細に開示されているものの、実際に市民に知られているとは言い難い。「全職員が環境活動に努力し、成果をあげている」ことをアピールすることは、市民の環境意識啓発にも繋がるはずである。“よりわかりやすい表現方法”“より伝わりやすい周知方法”を再検討していただきたい。